

【全体概要】 県産大豆の主力品種である「フクユタカ」は早播きでは倒伏や青立ちが懸念されるため、7月以降の播種が中心となっている。しかし、この時期は梅雨と重なるため、長雨による播種遅れや播種後の湿害が深刻な問題となっている。そこで「フクユタカ」よりも早播き適性に優れ、リスク分散ができる品種の導入を検討する。

## 新品種・新技術等の概要

導入を検討する「里のほほえみ」、「サチユタカA1号」は、「フクユタカ」より早播き適性があり、作期分散が図れること、他県で導入実績があり実需者の評価があることより選定した。両品種は共に、「フクユタカ」と比べて早播き適性の他、耐倒伏性や難裂莢性に優れており、安定生産が期待できる。両品種は令和元年度の三重県農業試験場内等での試験の結果、県内における早播き適性について確認されている。



開花期頃（7月末）の「里のほほえみ」（左）と「サチユタカA1号」（右）の姿。  
両品種とも播種は6月中旬  
（農業研究所内圃場：松阪市）

## 主な取組内容

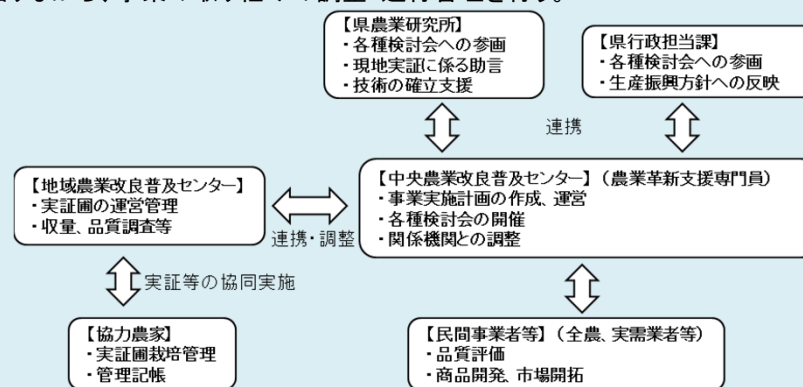
2年間で延べ16か所の実証圃を設置し、新品種導入に向けて検討を進めた。また、産地間および実需者との意見交換や意向把握を行うための検討会を開催し、新品種導入に向けて機運を高めた。

実証結果から、供試した2品種のうち、生産性等で優る「サチユタカA1号」を普及品種として選択した。  
普及にあたり、実証圃の結果をもとにマニュアルを作成した。



## 実施体制図

中央農業改良普及センターが中心となり、生産者、試験研究機関、県行政、民間事業者等との連携を図りながら、事業の取り組みの調整・進行管理を行う。



## 実績と今後の展開

2年間の実証の結果、「サチユタカA1号」が県内の早播き栽培適性に優れると判断し、令和4年産より県内での試験的な導入が決定された。（播種予定面積：約60ha）

「サチユタカA1号」は、6月中下旬に播種した時に「フクユタカ」に比べて生育は安定するが、カメムシの被害を受けやすく、防除時期が早生水稻の収穫時期と重なり作業が競合するという問題がある。収穫時期も麦の播種との兼ね合いが懸念される。導入にあたっては、他の経営作目との関係を十分に考える必要がある。

また、「サチユタカA1号」は、「フクユタカ」や「里のほほえみ」に比べると全国的な作付面積が少なく、導入を進める中で、市場の評価を得て安定的な需要を得ていく必要がある。これまでも増して実需者を意識した取り組みが必要となってくる。